

# 千葉大学医学部附属病院で腎生検をされた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年2月13日

腎臓内科

腎臓内科では、後天性腎疾患の病態における液性因子の検討に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

## 本文書の対象となる方

2017年より実施されている「腎臓内科疾患のデータベース作成ならびに腎臓病の新規診断法と新規治療法の開発」に参加され、将来の研究への試料・情報の利用及び提供に同意された方

## 1. 研究課題名

「後天性腎疾患の病態における液性因子の検討」

## 2. 研究期間

2026年承認日～2028年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

## 3. 研究の目的・方法

後天性腎臓病（腎疾患）は、いろいろな病名に分けられます。しかし、それらの原因の大部分は解明されていません。多くの腎疾患では、尿タンパクの多さは腎臓機能の悪化の目安になるとされています。その中で、ネフローゼ症候群は、大量のタンパク尿と高度の浮腫を発症する腎臓病であり、多くの場合、入院と治療を必要とします。そのネフローゼ症候群の予後は、一回の治療で治癒するものから、治療に難渋する場合まで様々です。どうしてこの病気を発症するのかは依然として判明していませんが、腎臓にあるポドサイトという特徴的な細胞が障害されていることは広く知られています。最近になり、ポドサイトにある Crumbs2 (Crb2) というタンパク質の異常により、ネフローゼ症候群を呈することが

報告されています。私たちはこれまでに Crb2 の特徴について研究を行い、Crb2 を刺激することにより、動物においてネフローゼ症候群を発症することを発見しました。

本研究では、人においてもネフローゼ症候群発症に Crb2 が関わることを明らかにするため、ネフローゼ症候群発症時の患者さんの血清を用い、Crb2 に対する抗体と Crb2 に結合するタンパク質の測定を行い、他の後天性腎疾患の患者さんの血清と比較を行います。この研究により、ネフローゼ症候群の発症に関わる血液中の物質を明らかにすることができ、将来的にはその物質を中心に治療法を開発することまで期待できると、私たちは考えています。

#### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

治療中の血液検査の一部として保存させて頂いていた血液を、本研究の材料(試料)とします。また、本研究の結果の解析に、診療録に記載されている診断名、年齢、性別、治療方法、治療反応性などの関連を調べます。

治療中の検査データを参考とさせていただきます。頂いた血液は、研究の代表施設である杏林大学医学部小児科学研究室に輸送されます。輸送された血液は、杏林大学医学部小児科学研究室で保存されます。それを用いて、同研究室と研究協力施設であるデンカ株式会社で、各種分子の測定を行います。これらの血液検体を共有する際は、患者さんのお名前等は削除し、個人を直接特定できないようにいたします。ですので、患者さんの情報が外部に漏れることはありません。

#### 5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
杏林大学	楊 國昌
共同研究機関名	研究責任者
共同研究機関一覧 参照	

#### 6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院腎臓内科および各研究機関において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事

ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

## 7. 研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

### 相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

腎臓内科（医員） 山崎 佳穂

腎臓内科（助教） 若林 華恵

腎臓内科（教授） 浅沼 克彦

043（222）7171 内線5085

## 別紙 研究実施体制、共同研究機関一覧

代表施設：杏林大学医学部小児科学教室

研究代表者：楊 國昌（小児科学特任教授、杏林大学医学部付属杉並病院）

研究責任者：木内善太郎（小児科学学内講師、杏林大学医学部付属病院）

### 共同研究機関と研究責任者（職位）

- 1) 宮城県立こども病院腎臓内科、稲垣徹史（科長）
- 2) 埼玉県立小児医療センター腎臓科、藤永周一郎（科長）
- 3) 自治医科大学小児科、金井孝裕（准教授）
- 4) 埼玉医科大学小児科、秋岡祐子（教授）
- 5) 松戸市立総合医療センター小児科、篠塚俊介（副部長）
- 6) 国立病院機構千葉東病院小児科、金本勝義（診療部長）
- 7) 千葉県こども病院、久野正貴（部長）
- 8) 東京都立小児総合医療センター腎臓・リウマチ膠原病科、濱田 陸（医長）
- 9) 東京女子医科大学腎臓小児科、三浦 健一郎（教授）
- 10) 東邦大学大森腎センター、濱崎祐子（教授）
- 11) 東京大学小児科、張田 豊（准教授）
- 12) 順天堂大学医学部付属練馬病院小児科、大友義之（教授）
- 13) 横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター、神垣佑（助教）
- 14) 北里大学小児科、石倉健司（教授）
- 15) 静岡県立こども病院腎臓内科、北山浩嗣（医長）
- 16) あいち小児保健医療総合センター腎臓科、藤田直也（副センター長）
- 17) 藤田医科大学小児科、池住洋平（教授）
- 18) 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌・腎臓内科、藤丸 季可（部長）
- 19) 大阪母子医療センター腎代謝科、窪田拓生（部長）
- 20) 大阪医科薬科大学小児科、芦田 明（教授）
- 21) 関西医科大学小児科、金子一成（教授）
- 22) 岡山大学小児科、宮原宏幸（准教授）
- 23) 倉敷中央病院小児科、綾 邦彦（部長）
- 24) 福岡市立こども病院腎疾患科、郭 義胤（科長）
- 25) 久留米大学小児科、田中征治（講師）
- 26) 熊本大学小児科、倉岡将平（助教）

- 27) 金沢大学腎臓・リウマチ膠原病内科、岩田恭宜（教授）
- 28) 金沢医科大学腎臓内科、古市賢吾（教授）
- 29) 福井大学腎臓内科、遠山直志（教授）
- 30) 群馬大学腎臓・リウマチ内科、廣村桂樹（教授）
- 31) 埼玉医科大学腎臓内科、井上勉（教授）
- 32) 千葉大学腎臓内科、浅沼克彦（教授）
- 33) 東邦大学大森腎センター、濱崎祐子（教授）
- 34) 順天堂大学腎臓内科、鈴木裕介（教授）
- 35) 順天堂大学浦安病院腎臓高血圧内科、鈴木 仁（教授）
- 36) 順天堂大学練馬病院腎臓高血圧内科、井尾 浩章（教授）
- 37) 聖路加国際病院腎臓内科、鈴木倫子（部長）
- 38) 虎ノ門病院腎臓センター内科、和田健彦（部長）
- 39) 虎ノ門病院分院腎臓センター内科、澤 直樹（部長）
- 40) 慶應義塾大学腎臓内分泌代謝内科、林 香（教授）
- 41) 慈恵医科大学腎臓高血圧内科、横尾 隆（教授）
- 42) 東京女子医科大学腎臓内科、星野純一（教授）
- 43) 三重大学腎臓内科、片山 鑑（准教授）
- 44) 京都大学腎臓内科、柳田素子（教授）
- 45) 熊本大学腎臓内科、横井 秀基（教授）
- 46) 東京都立病院機構研究推進センター、佐藤船斗（生物統計家、主事）

共同研究機関：デンカ株式会社 診断薬研究部 小笠原 大輔